

## 行動宣言 8 みんなが参加して環境と共生するまちをつくりま

地域の自然を生かした、環境に配慮した持続可能なまちをつくるためには、行政や企業だけではなく、住んでいる人も共にどのようなまちをつくるのか考え、コミュニティの一員として、主体的にまちづくりの場に参加することが必要です。

### 行動メニュー

#### 【個人】

☺	1	身近にある水辺やみどりに興味を持ち、庭に植物を植えるなど、多様な生きものが一緒に暮らせる環境を守り、つくりま。
	2	環境に配慮したまちづくりに関心を持ち、パブリックコメントなどの機会を活用し、積極的に提案を行います。
	3	町内会、自治会、PTA、商店街組織、ボランティアなど地域社会の活動に関心を持ち、率先して参加しま。
	4	地域に根付いている景観や自然がまちにあることを意識し、それらを尊重して、守る活動に参加しま。

#### 【企業・行政・団体】

		企業	行政	団体
1	まちづくりや住まいづくりに係る事業は、地球温暖化防止や周辺環境に配慮した計画、設計、工法で行いま。			
2	まちづくりに際して、計画策定の場に住民が参画しやすいように工夫をしま。			
3	地域の経済発展と環境保全が両立するようなまちづくりに協力しま。			

### コラム

#### 地球温暖化に対する適応策

地球温暖化に対する対策は大きく分けて、原因となる温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、既に起こりつつある、あるいは起こりうる温暖化の影響に対して、自然や社会のあり方を調整する「適応策」の2つがあります。

地球温暖化の影響と考えられる現象は、農作物の品質低下、極端な高温による熱中症の多発、短時間強雨による洪水、土砂災害の被害など、既に現れ始めており、今後様々な分野でその影響が拡大するとみられています。こうしたことから、緩和策を進めると同時に、適応策についても取り組んでいく必要があります。

身近なところでは、大雨による危険な場所や、避難場所をハザードマップなどであらかじめ確認したり、熱中症に備えてこまめな水分補給をするなどがあげられます。

## 環境共生のまちづくり

再生可能エネルギーの利用、コージェネレーションシステムの採用、風や水といった自然を生かした建築デザインなどによる創エネ・蓄エネ・省エネや、地域の生態系に配慮した緑化など環境と共生したまちづくりが進んでいます。

### <SMA×ECO CITY 相模原 光が丘エコタウン>

【面積】敷地面積 約3.5ha 127戸

【主な取組】既存樹木の保存など緑地の計画的な配置、すべての住宅に太陽光発電パネル・蓄電池の設置とHEMS導入による災害時にも機能するエネルギー自立システムの整備、電気自動車用コンセントの設置 等



### <Fujisawa サステイナブル・スマートタウン>

【面積】敷地面積 約19.3ha 約1,000戸

【主な取組】生物多様性に配慮した緑化・ビオトープの整備、創エネ・蓄エネ・省エネ設備の導入による戸建住宅のCO<sub>2</sub>排出量±0仕様化、EVカーシェアリング等のモビリティ・サービスの提供 等



(参照：神奈川県HP 環境共生都市づくり事業)

## 官民連携の取組（おだわらスマートシティプロジェクト）

おだわらスマートシティプロジェクトは、2012（平成24）年に設立された、小田原市が事務局で、市内59企業が参加する団体です。

小田原市を賢くエネルギーが使われている、地球環境にやさしいまち（スマートシティ）にすることを目指し、エコカーの普及促進、再生可能エネルギーの普及促進、省エネルギーの推進を中心に事業展開しています。



(参照：小田原市HP)

## カーボンオフセット、カーボンフットプリント

### <カーボンオフセット>

日常生活や企業活動等において排出される二酸化炭素等の温室効果ガスのうち、削減が困難な量について、ほかの場所で削減された温室効果ガスの削減量・森林の吸収等をもって埋め合わせることで。

(参照：環境省 HP)

### <カーボンフットプリント>

商品・サービスがつくられてから捨てられるまでの過程で排出された温室効果ガスの量を二酸化炭素量に換算して表示することです。

(参照：環境省 HP)



## (7) ライフスタイル

### 行動宣言9 環境に配慮したライフスタイルや事業活動を拡大します

地球温暖化をはじめとする地球環境問題を解決していくために、一人ひとりがこのことを自分たちの問題として考え、「環境にやさしい」ということを意識して、毎日の暮らしの中で、自分でできることを実践していくことが必要です。

#### 行動メニュー

##### 【個人】

😊	1	環境への負荷が少ない暮らしを意識して、自治体や企業が提供している環境家計簿やエコチェックシートなどを活用して、自分の行動を確認したり、見直したりします。
	2	環境ラベル <sup>17</sup> などの表示や、環境保全活動に熱心な企業・地域の取組を確認して、環境への負荷が少ない商品やサービスをできるだけ購入、利用します。
	3	環境への負荷が少ない商品を購入するだけでなく、レンタルやシェアの利用も心がけます。
	4	地球環境保全に関する国際条約の内容や国際的な動向に関心を持ち、寄付やボランティア活動などを通して、国際協力や国際交流に参加します。

##### 【企業・行政・団体】

		企業	行政	団体
1	組織の特性に応じた環境マネジメントシステム <sup>18</sup> を導入し、確実に運用します。			
2	環境への負荷の少ない商品の情報を提供したり、環境ラベルなどの情報をわかりやすく伝えます。			
3	環境への負荷の低減につながる技術の開発や導入、普及を進めます。			
4	地球環境保全に関する国際的な動向の把握に努め、これらの情報を広く紹介します。			
5	地球環境保全に係る国際協力や国際交流を行ったり、支援したりします。			
6	環境経営の推進状況や地球環境保全活動等について積極的に公表したり、地域の活動に参加するなど住民とのコミュニケーションを図ります。			

#### 用語説明

##### 17 環境ラベル

製品やサービスの環境に関する情報を製品や、パッケージ、広告などを通じて、消費者に伝えるもので、国及び第三者機関の取組や、事業者団体の取組などさまざまなラベルがあります。(出典：日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 HP)

##### 18 環境マネジメントシステム

組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境管理」又は「環境マネジメント」といい、このための工場や事業所内の体制・手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」(EMS)といいます。

(出典：環境省 HP)

## 事例紹介

### 環境家計簿・エコチェックシート

毎日の生活の中で地球環境保全のためにできることを一覧にして、行動の確認を手助けするツールが自治体や企業から様々な形で提供されています。

#### <マイアジェンダ登録（かながわ地球環境保全推進会議・神奈川県）>

環境配慮に向けて自主的に取り組む内容を登録（宣言）するもので、「新アジェンダ 21 かながわ」の行動メニューに基づいており、全 35 項目の“フルバージョン”と、10 項目にしぼった“もったいないバージョン”、消費電力の削減に注目した“節電バージョン”の 3 種類があります。今後は、「マイエコ 10（てん）宣言」として取組を進めます。

#### <ひらつかCO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>（コツコツ）プラン（平塚市）>

地球温暖化対策の鍵となるCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の排出量削減に、家庭から「コツコツ」取り組んでいくための行動プランです。12 の取組メニューがあり、参加者は、毎年市が設定した目標の削減量以上になるようメニューを選びます。1 か月間取り組んだ結果を市に報告します。

#### <大和市かんきょうノート（大和市）>

チェック項目にしたがって、環境を大切にすいくつかの行動を 2 週間にわたり実践するものです。それにより、二酸化炭素の削減量と、家計の節約効果を数値として確認することができます。平成 25 年度は大和市立全中学校（9 校）の生徒が参加しました。

#### <でんき家計簿（東京電力）>

過去 2 年間の電気の使用量と料金をはじめ、家族構成等が似た世帯との電気の使用方の比較やライフスタイルに合った料金メニューの試算、省エネアドバイス等が確認できるサービスです。

#### <myTokyoGas、省エネチェックリスト（東京ガス）>

毎月のガス料金・ご使用量を確認できるサービス「myTokyoGas」や、「キッチン」、「バスルーム」、「リビング・トイレ」の各シーンにおいて、現在取り組んでいることや、これから取り組もうとしていることの効果を簡単に計算することができる「省エネチェックリスト」があります。

（参照：神奈川県 HP、平塚市 HP、大和市 HP、東京電力(株)HP、東京ガス(株)HP）

### 環境ラベル

#### <エコマーク>



ライフサイクル全体を考慮して環境保全に資する商品を認定し、表示する制度です。ISO の規格（ISO14024）に則った国唯一の第三者認証によるタイプ I 環境ラベル制度です。

#### <統一省エネラベル>



省エネ法に基づき、小売事業者が省エネ性能の評価や省エネラベル等を表示する制度です。（出典：環境省 HP）

### いろいろなシェア クールシェア・ウォームシェア

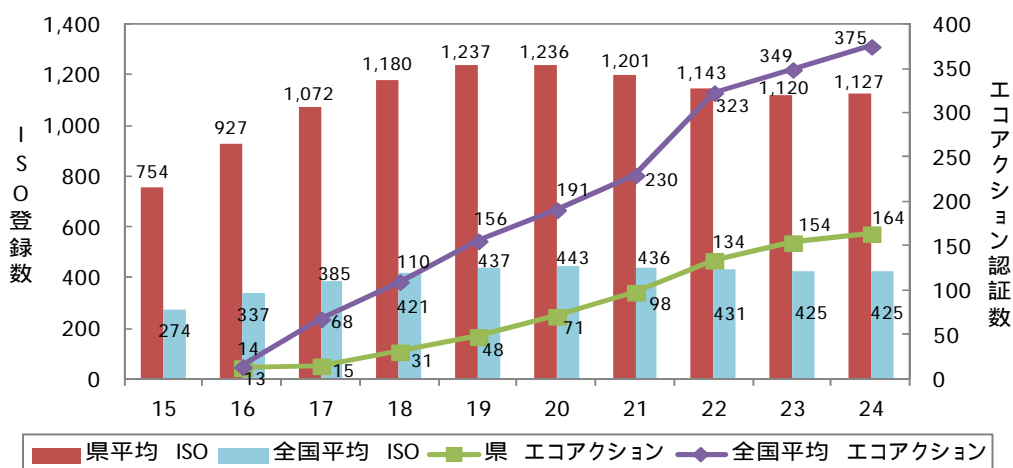
みんなでひとつの部屋に集まったり、各家庭の冷暖房を止めて楽しく過ごせる場所に出かけたりすることで、地域全体としてのエネルギー消費を減らそうという取組です。

## コラム

### 環境マネジメントシステム（EMS）の導入

国際標準規格である ISO 14001 や、中小事業者等においても容易に環境配慮の取組を進めることができるよう、環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告を一つに統合した環境配慮のツールであるエコアクション 21 などがあります。独自の EMS を導入する機関も増えています。

#### 【ISO14001 とエコアクション 21 の登録・認証数の推移】



### 化学物質の適正な管理

私たちの身のまわりには、プラスチック、塗料、合成洗剤、殺虫剤など、数多くの製品があふれていますが、これらはすべてさまざまな化学物質で作られており、化学物質は私たちの生活になくてはならないものになっています。しかし、このように有用である化学物質も、適切な管理が行われなかったり、事故が起きれば、深刻な環境汚染を引き起こし、人の健康や生態系に有害な影響をもたらすおそれがあります。

そのため、人の健康や生態系へ有害な影響を及ぼすおそれのある化学物質について、適正な管理に努めなければなりません。

（参照：環境省 HP）

### 地球環境保全に関連する主な国際条約

- ・気候変動枠組条約（UNFCCC）  
大気中の温室効果ガスの濃度を安定させることを目的とした条約
- ・生物多様性条約（CBD）  
地球上の多様な生物と生息環境の保全を目的とした条約。
- ・ワシントン条約（CITES）  
絶滅危惧種の野生動植物種の国際取引規制を実施。
- ・ラムサール条約  
水鳥の生息地である湿地や動植物の保全、湿地の適正利用を薦める目的として採択された条約。
- ・ウィーン条約  
オゾン層保護の為の研究、観測などの協力、情報交換などを規定。

（参照：外務省 HP）

( 8 ) 学び

**行動宣言 10** 環境への関心を高め、学び、行動する人を増やします

地球環境問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくためには、環境についての学習や活動を広めていくことが必要です。

行動メニュー

【個人】

😊	1	環境に関する情報に関心を持ち、学校や自治体、市民団体などが実施する環境関連講座や環境学習活動に参加します。
😊	2	身近な環境や環境問題について学んだことや考えたことについて、家族や地域、学校などで積極的に話し合います。
	3	家庭や地域において、自分のもっている知識や経験を生かして、子どもや周りの人々に環境を守る取組を伝えます。

【企業・行政・団体】

		企業	行政	団体
1	環境教育・環境学習の機会の提供や、支援をします。			
2	環境教育・環境学習を通じて、環境保全活動に携わる人材を育成します。			
3	従業員や職員の研修に環境問題を取り入れるなど、組織全体で地球環境保全の重要性を理解する機会をつくりま			
	す。			

事例紹介

かながわ環境教室

神奈川県では、環境・エネルギー等に関して豊富な知識・経験を有するNPOなどの団体や企業の方を講師として小・中学校、高校等の学校に派遣し、児童又は生徒を対象に体験型の授業を実施しています。（参照：神奈川県 HP）

授業の様子



ショッピングセンターなどでの環境展

体験型環境イベントがショッピングセンターなどが行われ、身近な場所で環境について学ぶ機会が提供されています。（参照：神奈川県 HP）



左：アピタエコ博  
（アピタ長津田店）  
右：オーロラモール  
ECOフェア  
（西武東戸塚店）

おおい自然園（大井町）

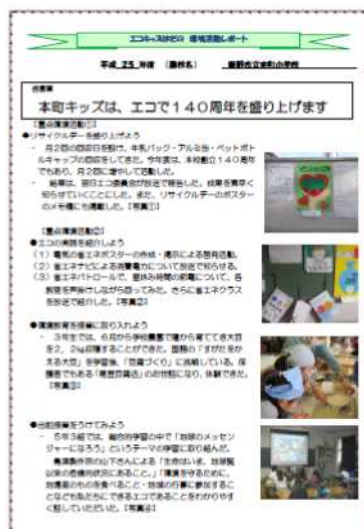
大井町にあるたくさんの自然のすばらしさをわかりやすく伝えていくため、町全体を自然博物館と捉えた「おおい自然園事業」が展開されています。自然観察会や生きもの調査・展示会などをおして、地域の自然環境について「親しみ」、「知り」、「守って」いく心を養っていくものです。（参照：大井町環境基本計画 大井町役場 HP おおい自然園）



環境に配慮した行動を毎日の学校生活から育む取組  
各学校で環境に配慮した行動について考え、取組項目を掲げ、その実現に向けて実践し、取組内容を報告したり、認定を行ったりしています。

[県内での主な取組事例]

- ・さがみ風っ子ISO認定制度（相模原市）
- ・わかば環境ISO（平塚市）
- ・チャレンジ「かわせみ」（藤沢市）
- ・スクールエコアクション（茅ヶ崎市）
- ・エコキッズはだの（秦野市）
- ・海老名市えびなっ子環境ISO（海老名市）
- ・レッツトライひまわり環境ISO（座間市）



エコキッズはだの環境活動レポート

エコスクール（厚木市・藤沢市）

エコスクールは、世界最大NGOのひとつ、FEE（環境教育基金）が運営する学校での環境学習プログラムで、欧州を中心に世界54カ国、4万校以上で取り組まれています。

子どもたち自身が中心となり課題の決定から、調査・計画・実行など環境について考える7つのステップがあり、これらをクリアすると国際的な認証であるグリーンフラッグの取得申請ができ、同基金の審査を受け、認証されます。



【ロゴ提供：FEE Japan】

神奈川県では、2015（平成27年）4月時点で、厚木市立相川中学校、同緑ヶ丘小学校、同戸田小学校、同相川小学校、湘南学園小学校（藤沢市）の1中学校、4小学校が「グリーンフラッグ」を取得しています。

<各学校の主な活動内容>

- ・1530（ひとつもごみなし）大作戦と称して15日と30日に全校でごみ拾いを実施しました。
- ・校長先生がエコレンジャーを任命するとともに、エコレンジャーのキャラクターを児童がデザイン、投票で決めました。
- ・校舎に作られたビオトープ、「学びの森」にて、生きものを観察する「いきものみつけグループ」、看板作りや使い方のルールを考える「学びの森グループ」などに分かれてそれぞれ計画し、活動しました。